

もはや振り向くことのない水兵の背に 滝のような乳が流れる

merongree

彼氏が撮ったにしちや美少年みたいに写っているね、と

母のアルバムを引っ張り出してみじかい青い滝のまえの彼女のことを言った
生徒手帳みたいにださいポシエットを肩から胸の前に垂れ下げている彼女は
墓碑のように墨の薄い看板のまえに立ち水兵のような清潔さで静止している
馬鹿なことを言うと母 踏みつぶされたヒキガエルの内臓のように華やかな
姉の普段から投げっぱなしにしているブラジャーの山を踏み越えて台所へ退く
あの滝の飛沫を浴び寒そうにしている顎の尖った美少年の面ざしはとうになく
今夜私たち全員が食べることになるシチューに沈んでいる塊の赤い肉のように
頼もしい四人分のたわわな生活がいまやその丸い背中に滴るばかり実っている

姉は上を向いて置かれた釘のように容赦のない美貌で 燦々と輝く金属の肌をし
あの尖った鼻で産まれるとき母のお腹を一突きにした 馬ではない馬には脳天に
角のある不思議なのがいるけれどうちの姉はそうだ ただの姉が馬であるならば
うちの姉は角馬のほうだ 磨かれた蹄を持った千里を走る駿馬の美貌をしていて
すらりとした両足に嵌めこまれた蹄鉄でさんざん母のお腹や乳の上を踏みつけて
あの滝の前で黙りこんでいた水兵を乳で煮込んだシチューの女に糞してしまった
父というのは余りにも直接的ひょうげんすぎる うちの場合は父の代わりに兄だ
どうやら脳まで美しい我が姉のそれには皺がない 人間の言葉が馬耳東風である
うちのお嬢さんとかお姫様 そんな意地悪さでのろくさと母に呪われている姉と
まるで鉄砲で撃たれた鳩のように何もかも悟り切りしぬのも躊躇しない兄がおり

その兄に好きな男がいるのかと尋ねられたことがあった 父のつもりで恐らくは
「いるよ」と大人しく私は悪いことを白状するみたいに答えた「でも男になりたい」と
言った これも正直な感想だったが「なんで？ 付き合わずに済むから？」とか

とんちんかんなことをこの秀才の兄は私に阿っている積りらしい潜めた声で言った
私は「そのひとの目に同性と映らない限りは可愛いと思われていない気がするから」
と正直に言った この病人のように優しい兄のまえでは私も正直になるより仕方なく
兄はまた一つ私の病気をみつけて目のなかに痛ましい位尖った緊張の先端を光らせた
私は姉が鼻血を出したのだと思った 取り乱しながらも彼女は怒号の演説のような
自分を中心とした怒りの渦を渦巻いていたもので 彼女が何か鼻血を出すみたいなの
華々しい主張をしたのでリビングが沸騰したのだと思った 年賀状が落ちてた
むかしの聖書の内容が壁画に描かれたみたいに 写真付き年賀状が姉に世間を教える
幼稚園のときの友達が子供を産んでいた なぜ夫と子供を自分が持っていないのかと
言って姉がくるしみ発作を起こしていた お姫様とか言われ過ぎて時折気づいて怒る
スイミング以外に体育をさせたことのない 産まれたままのどかな隆起で静止した
筋肉が乾いた凧のように母の手のあいだを滑り抜けてふらふらと漂い逃げまどうのを
テレビが点けっぱなしになっているのを聴きながら惰眠をむさぼるように眺めていた
自分の脱いだコートで姉を窒息させる兄があらわれて姉の悲鳴が砂嵐に変わった もし
どうしても駄目なら埋めてくるよと母と私とを笑わせにかかった兄の習慣的な微笑み
母は美少年じゃなくなるときに乳をあんな奔馬の姉にみなやってしまうときに
果たして何ももくろまなかったか もはや釘の頭のように平べったいあの顔で
どうやってどげえもんのように息を吹き返せないほどの美しさの姉の顔を想像
したんだろうかと想像がつかない シャッターを切った父にも全然似ていない
まるで姉だけフィクションであるみたいだ 実在の母に基づかない少女を産み
育てた あの青くて熟れていないお腹のなかで父と同姓の息子を窒息した鳩にし
己と同姓の姉はどうして私は出産しないんだと言いだして暴れる奔馬に仕立てた
姉の顔がコートで見えなくなった途端 大人しくなったのが姉というより我が母
私が見てシャッターを切った いつか兄に向ってこのことを話そうと考えながら
どこかに埋めてくるねと言ひ玄関に姉を曳きだしていった大人しい兄を見て母の
背に滝のような安堵が流れるのを 自分を絞め殺した男の自分に弱められた子孫が
自分が乳と血で捏ね上げた最も華やかな敵を許しにかかるのを見て 喝采するのを